

**Q. In cell での deep learning の予測の精度を上げる方法は？**

論文では in cell でもある程度の予測ができていたと記しているだけで、改良法などは記していませんでした。

今後できる予測精度の改良法としては、一つのタンパク質だけからなる単純系ではなく、複数のタンパク質を含む複雑系での in vitro データを用いて学習させることが考えられます。

**Q. A-X と B-X で X の droplet への局在(濃縮度合い)が変化する例はある？**

詳しいデータはまたリサーチセミナーでお話しできればと思いますが、A と B に異なる性質の蛍光色素をつけると、X の droplet への局在(濃縮度合い)が変化するという傾向が示唆されています。

**Q. タモキシフェンの性質は？**

タモキシフェンはエストロゲンと競合的に結合する ER 阻害剤です。

タモキシフェンが MED1 と強く相互作用するという記述はされておらず、MED1 の過剰発現による MED1 droplet の拡大によって、なぜタモキシフェンはより濃縮されずに、濃度が減るかについても記述はありませんでした。

タモキシフェンの濃度が減ると考えるには、タモキシフェンは MED1 droplet にすでに大過剰濃縮されており、droplet 外にはほとんどタモキシフェンがいないと仮定する必要があると考えられます。